

## 地域おこし協力隊による地域づくり事例 ～行政と連携した起業・事業展開～

実施主体：合同会社オフィスくりおこ(栗山町)

### ①地域の概要

【人口】11,849人 【世帯数】5,886世帯(H30.11.1現在)

栗山町は、道都の札幌市、空の玄関口である新千歳空港、港湾がある苫小牧市から車で約1時間の距離にある、1次、2次、3次産業のバランスがとれたマチである。

### ②取組の目的

若者が働ける、集まれる、活躍する場が少ないため、町から若者が少なくなってきていること、町外への情報発信が乏しく、栗山町の認知度が低いこと、町への訪問客に対し、町の良さを伝える場がないことなどの課題を解決するため、『栗山町に若者を集め、「にぎわい」を作り、若者が働くことが出来る「なりわい」を作り、「にぎわい」と「なりわい」をマッチングさせることで若者が活躍できるまち「若者の町クリヤマ」を作り出す』ことを目的に実施。

### ③取組内容

#### <主な取組内容>

#### ○café&bar (カフェバル) くりとくら

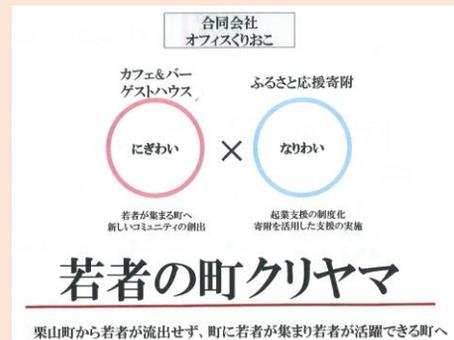
- 栗山町の農産物、加工品の提供、販売を行い町の魅力を伝えるカフェバルを平成30年11月にオープン。
- 地場産品の提供、定期的開催する町内・町外向けイベントをきっかけに「ヒト・モノ・情報が集まる交流拠点」を作り、町に「にぎわい」を創出する。
- 開業資金は、ふるさと納税による「ガバメントクラウドファンディング(以下、「GCF」)」を活用。当初の目標額の倍の約600万円を集める。

#### ○ゲストハウス運営

- 2019年8月に、町外の若者の滞在拠点であり、栗山町を深く知ることができるコンシェルジュ機能を持った地域密着型ゲストハウスをオープン予定。
- カフェバルと連携し、魅力の相乗効果を生み出す。

#### ○ふるさと応援寄附業務(栗山町からの委託)

- ふるさと納税を通じて、栗山町の特産品を全国に発信することで、栗山町の認知度を向上させ、交流人口の拡大、移住・定住者の獲得を図り、栗山町の発展に貢献する。
- カフェバルでは返礼品を地元で味わえる場を創出。



(参考URL : <https://www.kurioco.com/>)

### ④実績・効果

- GCFは52日間で408件もの寄附があり、その一部は町民からの寄附。
- カフェバル準備段階ではGCFのほか、DIY作業協力、商店街の方との懇談等を通じて、多くの方の理解と応援を得ることができた。
- 2018年11月16日のオープニングセレモニーには、20名を越す町民、団体代表や関係者が出席。

### ⑤苦労・課題

#### 【苦労した点】

- 地域おこし協力隊員間や行政職員間との目標設定等の共有・相互理解
- カフェバルやゲストハウスを実現するための物件探し

#### 【今後の課題】

- カフェバルでの集客(収益)の安定化
- ゲストハウスの運営の資金調達、ノウハウ構築

### ⑥活用した制度等

- 地域おこし協力隊起業支援事業補助金(栗山町)
  - ※ 地域おこし協力隊の起業に対する特別交付税措置、GCF、ふるさと起業家支援プロジェクトを組み合わせた栗山町独自の制度
- 外部専門家(地域力創造アドバイザー)制度(総務省)

### 本取組のお問い合わせ先

栗山町経営企画課地域政策グループ  
電話:0123-73-7502